

令和 7 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 2 月 25 日

札幌市立 米里中学校

1 米里中学校区における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	「自律と共生」	「人間性豊かな生徒の育成」を目指す	A	より生徒の実態を分析・把握したうえで、多面的な視点をもって、今後も重点目標を定めていく。	A	A
今年度の重点	15年間を見据えた児童・生徒の育成を図る	幼・保・小・中の連携を強め、連続性のある教育活動を展開する	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学2年生と保育園の交流会、わくわくポケットでの幼稚園との交流ができた。 ・ 中学校教師の小学校オリエンテーション、小学生の授業見学、部活動見学、生徒会との交流、合同コンクール見学などを行い、身近に感じることで、小学生の中学校に対する不安軽減に努めた。 ・ 中学2年生と小学6年生の交流会を行い、子ども同士が連携を促して、来年度に1年生と3年生となる児童と生徒がコミュニケーションを取ることができた。 	A	A
学校関係者評価委員会による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域が一体となり児童・生徒を育成しようという意識があるので、これからも対面で話をする場（パートナー校区学校運営協議会、教育機関連絡会等）を大切に、情報共有していきける関係を続けてほしい。 ・ 地域としての0歳から15歳までの考え方を、これからもどんどん進めていただきたい。この地域の取組を、他の地域、全市に広げていただきたい。 				

2 米里中学校における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	「人間性豊かな生徒の育成」を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を大切にす姿勢の育成 ・ 自己肯定感、自己有用感を高める行事への取り組み ・ 米里中の文化構築・環境整備・自校への誇り ・ 保護者・地域からの信頼 ・ 不登校生徒対応・いじめ撲滅 	A	より生徒の実態を分析・把握したうえで、多面的な視点をもって、今後も重点目標を定めていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		生徒たちは、行事を大切にしながら節目で成長している部分が多い。制約がある中ではあるが、学校の頑張りや上手にPRして、学校と保護者の協力関係をつくっていくことが、今後も大切な課題である。				

人間尊重の教育	子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり	学習活動づくり、環境づくり、人間関係づくりを意識した教育活動	A	互いの良さや可能性を発揮できるような授業づくり、互いの良さを認め合える仲間づくり、安心して過ごせる学校空間づくりを常に念頭に置いて、授業、学級経営、学年経営を行う。	A	A
「学ぶ力」の育成	分かる・できる・楽しい授業作り充実	わかりやすい授業の工夫や、基礎基本の定着に向けた授業改善が行われている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分かる、できる喜びを実感できるように、各教科でさらに授業の工夫や改善を目指す。 ・ ITや学習サポーターの充実など、学習が遅れがちな生徒への学習支援に積極的に取り組んでいく。 ・ ICT機器を積極的に活用し、より理解しやすい授業の工夫を行う。 	A	A
「豊かな心」の育成	豊かな社会性と人間性を育む	行事や生徒会活動などに積極的に取り組み、生き生きとした学校生活を送ることができるよう支援する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳教育を推進し、より良く生きる基盤を養う。 ・ 本校の伝統を継承しつつ、より生徒主体の視点に立った学校行事づくりを推進する。 	B	A
「健やかな体」の育成	学校での体育・健康に関する学びの質を高める	体育・健康の両面のバランスのとれた指導に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「健康」についての道徳を養護教諭が中心となって、学年道徳で取り組み、健康に対する知識と意識を高めた。 ・ 体育的行事や、その練習を通じて、周囲の仲間と共に自分の健康や体の合理的な動かし方について学びを深めた。 	A	A
いじめ対策	いじめの防止命を大切にす教育	家庭との連携を大切にしながら、本人の不安や悩みを早期発見し、安心して学校生活を送るための方法を探る	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段から生徒との信頼関係構築を目指してコミュニケーションを取り、安心して学校生活を送るための土台作りを行う。 ・ 小さな変化を見逃さず、教師、保護者、外部機関と連携して情報を共有する。 	B	A
学校関係者評価委員会による意見		アンケートの数値が上がっている部分は、学校側の工夫があるのか、生徒たちの受け取り方なのか、継続的に何か取り組みをして変化しているのかを検証する必要がある。研修や日々の取り組みを通して、生徒が学校生活を肯定的に捉えて生活できるように工夫してほしい。				

学校独自に設定する分野	保護者や地域に対して適切な情報発信ができてい	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の教育方針や様子などを意識して発信してきたが、学年PTAなど、保護者の方の定が学校に向くような工夫をほしい。 	A	B	
	教育相談の充実を図り、生徒理解に努める	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年2回の教育相談週間のいじめ調査、各学期末懇談などの活動をより充実させ、生徒一人一人の理解を深める。 ・ 日常的な生徒との関係づくりを大切に、生徒が相談しやすい信頼関係を育む。 	A	A	
	規律ある学校生活を保障し、安心と落ち着きのある生活環境を整える	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒全員が安心して落ち着いた学校生活が送れるよう、職員一丸となって生徒指導を行う。 ・ いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努め、命を大切にす指導の充実を図る。 ・ 小学校とも連携し、本校が掲げる「5つのかさ」の要なる浸透を図る。 	A	A	
学校関係者評価委員会による意見		学校側の取組がなかなか保護者に伝わらず、不安に感じている部分があると思われる。生徒が家庭で話している内容を保護者はそのまま受け止める傾向があるので、教師が頑張っていることをもっと保護者へアピールした方がよいと考える。その方が、保護者は学校へ信頼を寄せることにつながるのではないかと。				